

領収書等添付用紙

議員名

近森 正利

調査研究費・研修費・広報費・広聴費・会議費・資料作成費・資料購入費
人件費・事務所費

(該当項目に○をつけてください。)

ご利用明細票

お取扱日	店番	お取引内容
02-01-16	22275	通帳送金
記号	番号	
*****	*****	
取扱番号	お取引金額	
N109	*6,650	
	残高	
	*112,869	
みずほ銀行		
大津支店		
普通		
サ*イ*セ*ンコクシチヨウソクケンシユウサ*イ ンセ*		
送金料金	*220円	
振込予定日	02-01-16	
チカモリ マサトシ		

ご利用いただきましてありがとうございました。

—— ゆうちよ銀行 ——

研修参加費 6,650円 } 6,870円
口座振込手数料 220円 }

旅程明細書

No.

旅行者	所属	伊賀市議会	氏名	近森 正利
用務名(目的・場所)	第3回 市町村議会議員特別セミナー (滋賀県大津市: 全国市町村国際文化研修所)			
用務従事期間 (時間)	従事 月日	1月 27日	従事 時間	11:00 ~ 16:35
		1月 28日		9:00 ~ 12:30
		月 日		~

出張 月日	出発地 (出発箇所)	交通 用具	到着地 (到着箇所)	鉄道賃・船賃・航空賃・車賃			小 計	宿泊料	昼食代	夕食代	朝食代	
				路程	運 賃	急行料金						
1月27日	自宅	自家用車	全国市町村国際文化研修所	km 57.4	円 614	円	円 614	円 参加費に 込	円 参加費に 込	円	円	
1月28日	全国市町村国際文化研修所	自家用車	自宅	57.4							円 参加費に 込	
計							円 614	円	円	円	円	
							合計	円 614				

※ 研修参加費に昼食代も含まれる為、日当は請求しない。

令和2年1月14日

伊賀市議会議長 様

議員名

(自家用車提供者) 近森 正利

政務活動費自家用車使用届 (車賃計算書)

下記のとおり、調査研究等のため自家用車を使用しますので届け出ます。

調査年月日	令和2年1月27日(月)～1月28日(火)		
目的地 (調査研究等場所)	全国市町村国際文化研修所		
調査研究等の内容	第3回市町村議会議員特別セミナー		
自家用車使用経路	出発地	自宅	
	到着地	滋賀県大津市	
自家用車を使用する理由	所要時間が短縮でき、効率的かつ経済的である。		
同乗者			
自家用車の車種	ダイハツ ウェイク	高速・有料 道路利用	有・ <input type="checkbox"/> 無
型式	DBA-LA700S	有料駐車場 利用	有・ <input type="checkbox"/> 無

以下、事務局記入欄

自家用車使用経路 (出発地～到着地)	走行距離 (km)	燃費値 (km/L)	自動車燃料 単価(円)	ガソリン代 (円)
	A	B	C	$A \div B \times C$
自宅(東高倉)～全国市町村 国際文化研修所(往復)	114	25.4	137	614
～				
～				
合 計				614 円

(算出根拠)

※走行距離は、ルート検索ソフト等の地図上で計測する。(km未满是切り捨て)

※燃費値は、国土交通省が公開する「自動車の燃費性能に関する公表」による。

※自動車燃料単価は、出発日の属する月の市の契約単価による。

社会福祉と財政システム

京都大学大学院経済学研究科 諸富徹 教授

日本の社会保障費は、1990年に特例公債の発行から脱却できたが、2019年予算では、大幅に増え、特例公債で賄っている。社会支出の国際比較では、日本は高齢費が多い、スウェーデンは、積極的労働市場政策が充実している。スウェーデンは、衰退する企業を守らないが、働く失業者のステップアップ教育制度が充実し、家族手当や住宅手当が充実しており、国家が国民を守る制度がある。日本は戦後、終身雇用で会社が守ってきたが今は、雇用状況が変化している。

福祉国家モデルの3類型では、普遍主義モデルのスウェーデンでは、租税中心・全国民対象・平等志向で勤労参加、納税に積極的で企業に対して厳しい。社会保険モデルのドイツ・フランスは、社会保険中心・職域被雇用者がベース・所得比例的給付で助け合いの組織で日本も学んでいる。市場重視モデルのアメリカは、民間保険中心・最低限の国家介入・自立自助やボランティアの考え方で、無保険車がある。日本の社会保障の特徴は、ドイツ型社会保険システムとして出発し次第にイギリス的普遍主義的方向に移行。ドイツは工業国であり日本は農業・林業・漁業・自営業者が多くいた。戦後1961年に国民皆保険制度を実現し、1985年基礎年金制度の導入が、普遍主義への転換点となる。消費税の重要性、社会保障の機能充実とセットで考える必要がある。

超高齢社会の現状と地域包括ケアシステムによるまちづくり

東京大学高齢社会総合研究機構 辻哲夫 特任教授

超高齢社会の到来で、人生100年、認知症、高齢者の一人暮らしの時代が始まり2040年が正念場となる。特に重要な新しい要素は、フレイルと在宅医療。政策の基本方針は、できる限り元気で弱っても安心して過ごせる地域づくり、自助互助の重要性、テクノロジーを活用したまちづくりに向かう。介護保険制度の見直しが必要となる。高齢者の急速な増加により予防を重視したサービスモデルに転換、認知症高齢者の急速な増加により認知症に対応したサービスモデルに転換、単身高齢者に対応したサービスモデルに転換が必要となる。今後の医療介護政策の方向は、地域包括ケアのまちづくりがベースになる。生活習慣病予防及び介護（フレイル）予防が重要となる。虚弱期のケアシステムの確立。医療機能の分化連携と地域包括ケアとかかりつけ医による在宅医療の推進そして最終的には、まちづくりが重要。早期の介護予防が必要であり、筋肉が弱ってからでは手遅れでありフレイル（虚弱）・介護予防が重要となる。

児童福祉の現状と課題

関西大学人間健康学部人間健康学科 山縣文治 教授

限界集落とは、高齢化のまちであり、消滅可能性都市とは、20代女性が住みたいまち子育てしたいまちである。少子化対策において重要な視点は、①人口減少を前提とした社会づくり②社会全体が出生数の確保に協力する覚悟③数十年先の人口状況を視野に入れた地方の生き残り策④女性が地方で子どもを産み育てたいという意識をもつことが可能な社会づくり⑤計画性のない地方の少子化対策は、地方の衰退を招く⑥結婚を前提とした出産をどこまで続けるか⑦日本を今の日本人で維持し続けることを放棄するかがカギとなる。

地域ぐるみの子育て支援の目標は、現実的な問題解決・問題の軽減と保護者自身の問題解決能力の向上と親子の地域生活力の向上が必要。

子ども虐待の支援で意識しておくべきことは、経済的要因はさまざまな問題に影響する。社会的孤立はさまざまな問題に影響する。DV家庭では、子ども虐待も起こりやすい。乳幼児期のネグレクトは死につながる。大人は自分の非を認めるのが苦手である。虐待はさまざまに組み合わさる。暴力的であろうが愛着的であろうが、完全に支配されていると、本当のことをいいにくい。他の対応方法がわからず、無意識的に虐待をしている人も少なくない。人間には回復力がある。人は皆楽しく生きたいと思っているが、楽しさは人によって違う。このことを理解して支援しなければならない。

障がい者の就労と暮らしの支援について

東近江圏域働き・暮らし応援センター“Tekito” 野々村光子センター長

「働く」は、人の思いが、重なって、大きな大きな力になる。

障がい者手帳の有る無しにかかわらず、生活に困っている人や仕事をするのに困難がある人を支援してこられた。「ひきこもれるという力」今までもこれからも人生にミスは無い。障がいのある人を福祉で考えない。

10年後の彼、彼女を応援したい。10年後の地域を考える。

「働くということ」

私たちは毎日たくさんの「働きたい」と出会う。

その「働きたい」思いには色んな意味がぎっしり。

家族への愛や自分のヘタクソや自慢したい気持ち。

稼いだお金で居酒屋へ彼らの「働きたい」と出会う度、「働くこと」が持つ力の大きさに驚き、学ぶ。

また「働くこと」は単なる作業ではなく、生きる力を育むステージそんなステージに立つ姿は誰もが真剣、誰もがカッコイイ、誰もがほんまもん。

輝く場所がここにある。Tekito

働き続けるには、自分に向いている仕事とゆとりが必要。

「働き暮らし応援センター事業」

障がい者以外の人達も支援。人と人の間に仕事が入ることで繋がるのが大事。

生活困窮者支援事業では、働くまでの応援が8割を締める。

企業の見学から始め実習へ、そして雇用に繋げていく。暮らしと働きをセットで応援する。就職を目標にしない、かっこええ大人を目指す。本人の働く条件＝応援団の工夫（一人ひとりの徳意の発見）。働く力は、生きる力や！（働き続ける力につながる）

「TEAM 困救」の活動

緑豊かな図書館の草刈り。山を守るため、木を間引いて薪にして地域のエネルギーにする。

時代の流れと共に地域の「困りごと」は見えづらく、そしていつの間にかそれは「諦めごと」になり始めている。私たち「働きもん」は、そんな地域の困りごとを救うチームである。誰が困っても解決できる地域へ そんな事を目指すのが、Team困救の活動

地域の中で、地域が回る仕事の中に居る仕組み、そんなステージに立つ彼らは、働くことは、

かっこいいと生きる力を学び、そして男前になって地域に飛び出す。

図書館の草刈りの目的は、子どもたちが安全に活動できるため。職場でエアコンのネジを締める仕事は、夏の暑さから人を守るため。と責任と使命感がある。ひきこもりから地域を支える人へ。ひきこもりと困窮の時間は、男前があふれる人になる為の時間である。

令和元(2019)年度

第3回 市町村議会議員特別セミナー

日々めまぐるしく変わりゆく国内外の情勢の中で、地方議会の議員には、様々な行政課題について学び、施策を提案していくことが求められています。

今回の研修では、「福祉」という共通テーマのもと、各分野でご活躍の著名な先生方よりご講演いただき、今後のわかまちの未来と地方議員に求められる役割について多角的に考えていきます。

多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

令和2年
1月27日(月)

社会福祉と財政システム

京都大学大学院経済学研究科/地球環境学堂 教授 諸富 徹氏

超高齢社会の現状と地域包括ケアシステムによるまちづくり

東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授 辻 哲夫氏

令和2年
1月28日(火)

子ども家庭福祉の現状と課題

関西大学人間健康学部人間健康学科 教授 山縣 文治氏

障がい者の就労と暮らしの支援について

東近江圏域働き・暮らし応援センター“Tekito-”センター長 野々村 光子氏

開催要領

日程 令和2(2020)年1月27日(月)～1月28日(火) (2日間)

場所 全国市町村国際文化研修所 JR京都駅より湖西線約15分 唐崎駅下車徒歩約3分

対象 市区町村議会議員の皆さま

2日間全日程をご受講いただける方を対象とします。途中退所や一時帰庁はできませんのでご注意ください。

募集人数 200人 募集人数を大幅に上回る申し込みをいただいた場合は、先着順とさせていただきます。そのため、申込期限前に締め切らせていただく場合があります。その場合は、JIAMホームページのトップページ「受講者募集中の研修」でお知らせいたしますので、適宜ご確認ください。

宿泊 研修所宿泊棟(宿泊型研修) ※外泊はできません。

経費 6,650円 左記金額は、研修、宿泊、食事(朝食1回、昼食1回、夕食1回)、資料等にかかる費用です。なお、事前準備・事前学習および最終日の昼食にかかる費用は含まれておりません。

申込期限 令和元年12月10日(火)まで

申込方法 議会事務局を通じて、JIAMホームページ内「研修Web申込みフォーム」からお申し込みください。
[Web申込み]が難しい場合は、受講申込書により議会事務局を通じてFAXでお申込ください。
※受講申込書は、議会事務局に送付しております。またJIAMホームページの書類様式集(<https://www.jiam.jp/doc/>)にも掲載しております。

受講決定 受講の可否については、開講日の約1か月前までに通知をお送りします。
経費納入方法等の手続きについては、受講決定通知書によりお知らせします。

● 問い合わせ先 ●

公益財団法人 全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所(JIAM) 教務部

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号 TEL. 077-578-5932 FAX. 077-578-5906

[e-mail] kenshu@jiam.jp [ホームページ] <https://www.jiam.jp>

令和2年

1月

27日(月)

- 11:00～ 入寮受付・昼食
- 13:00～ 開講式・日程説明
- 13:15～14:45 **社会福祉と財政システム**
 京都大学大学院経済学研究科/地球環境学堂 教授 諸富 徹氏
- 15:05～16:35 **超高齢社会の現状と地域包括ケアシステムによるまちづくり**
 東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授 辻 哲夫氏
- 17:30～ 交流会 ともに学ぶ受講者同士の親睦(情報交換・交流)を深めます。

令和2年

1月

28日(火)

- 9:00～10:30 **子ども家庭福祉の現状と課題**
 関西大学人間健康学部人間健康学科 教授 山縣 文治氏
- 10:50～12:20 **障がい者の就労と暮らしの支援について**
 東近江圏域働き・暮らし応援センター“Tekito-” センター長 野々村 光子氏
- 12:20～12:30 閉講・事務連絡

講師紹介

京都大学大学院経済学研究科/地球環境学堂 教授 諸富 徹氏

1993年同志社大学経済学部卒業。1998年京都大学大学院経済学研究科博士課程修了。1998年横浜国立大学経済学部助教授、2002年同大学院経済学研究科助教授、2006年同公共政策大学院助教授、2008年同大学院経済学研究科准教授。2010年より現職。この間、内閣府経済社会総合研究所客員主任研究官、ミシガン大学客員研究員を歴任。

経済産業省「総合資源エネルギー調査会」臨時委員、環境省「中央環境審議会合同部会地球温暖化対策税制専門委員会」、東京都「税制調査会」等の委員を務める。

東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授 辻 哲夫氏

1971年 東京大学法学部卒業後、厚生省(現 厚生労働省)入省。

老人福祉課長、国民健康保険課長、大臣官房審議官(医療保険、健康政策担当)、官房長、保険局長、厚生労働事務次官等を経て、2009年東京大学高齢社会総合研究機構教授、2011年同機構特任教授、現在に至る。

厚生労働省在任中には、医療制度改革などに携わる。

関西大学人間健康学部人間健康学科 教授 山縣 文治氏

大阪市立大学卒業後、同大学院に進学しつつ、児童養護施設の指導員を務める。

日本子ども家庭福祉学会会長、社会福祉学会理事などの学会活動のほか、厚生労働省「今後の児童家庭相談体制のあり方に関する研究会」座長、社会保障審議会臨時委員、大阪市の行動計画策定委員長など、子ども家庭福祉行政などでも活動。2004年には、子育て支援の拠点「みなくるハウス」を設置し、地域活動も手がけている。

1982年大阪市立大学生生活科学部助手、1991年同講師、1994年同助教授、2003年同教授、2010年より現職。

東近江圏域働き・暮らし応援センター“Tekito-” センター長 野々村 光子氏

滋賀県竜王町出身。精神保健福祉士。2015年ふるさとづくり大賞個人表彰(総務大臣賞)受賞。

“Tekito-”では、480社に及び企業・事業所と連携し、障がいのある人やひきこもりの人の就労と生活の支援を行う。市民活動が活発な東近江の地域特性を活かし、さまざまな企業・事務所・市民活動と出会う機会を創出。

これらを通じて、障がい分野以外の地域課題にも取り組んでいる。

● 研修内容については、都合により変更になることがありますので、予めご了承ください。なお、研修についての最新情報は、JIAMホームページをご覧ください。

JIAMメールマガジンのお知らせ

当研究所では、メールマガジンを発行しています。各研修に関する最新情報などを定期的にお知らせします。ぜひご登録ください。読者登録は、JIAMホームページで受け付けています。

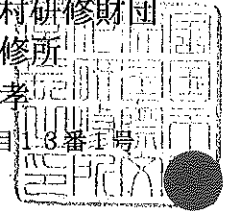
全国研第579号
令和元年12月20日

三重県 伊賀市議会議長様

公益財団法人全国市町村研修財団
全国市町村国際文化研修所

学長 藤原 通孝

滋賀県大津市唐崎二丁目 3番1号



研修受講の決定について

先にお申し込みいただきました貴所属議員の研修受講について、次のとおり決定しましたので、お知らせいたします。
つきましては、以下の事項にご留意のうえ、所要の事務手続き等についてよろしくお願いたします。

氏名	近森 正利
コース名	令和元年度第3回市町村議会議員特別セミナー
研修期間	令和2年1月27日(月) ~ 1月28日(火)

1 研修受講に要する経費の納入について

下記金額を指定期間内に指定口座へ振り込んでください。
なお、本決定通知をもって請求書に代えさせていただき、別途請求書は発行しません。

(1) 納入金額：6,650円 <内訳> 研修費(@1,200) 2,400円
食費 2,000円
研修生活動費 2,250円

(2) 指定期間：令和2年1月16日(木) ~ 1月22日(水)

(3) 指定口座：滋賀銀行 唐崎支店 普通 No. [REDACTED]
みずほ銀行 大津支店 普通 No. [REDACTED]
名義人： さいせんこうしやうりんかふくしやうだん
せんこうしやうりんこさいふんかふくしやう
(公財)全国市町村研修財団
全国市町村国際文化研修所

イカシ 4カモリマサシ

注1) 振込依頼書の「ご依頼人氏名欄」は、必ず貴団体名を記入してください。
注2) 貴団体からの振込通知書の送付は不要です。

毛)

097. 178. 893/

- 2 受講者に対する連絡指導について
同封した以下の書類を受講者に渡していただき、受講者が必要な事前の準備を整えたうえ、所定の日時（令和2年1月27日 11:00～12:00）に研修所に入所するよう指導してください。
 - ・受講にあたっての留意事項（受講者用）
 - ・時間割
 - ・JR湖西線時刻表／研修所周辺地図
- 3 受講者を研修に専念させることについて
研修期間中は、研修に専念していただくため、緊急の場合を除き、職務の都合により途中退所や一時帰庁するのはもちろんのこと、職務関連の電話連絡を受けることのないよう、事前準備についてお伝えください。
- 4 研修所への利用交通機関について
研修所は、JR湖西線・唐崎駅より徒歩3分です。唐崎駅には快速・新快速列車は停車しませんので、ご注意ください。
所内の駐車スペースには限りがありますので、来所の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。なお、研修期間中は、休日を除いて車での外出はできません。
- 5 最終日の宿泊について
最終日の宿泊はできませんので、当日帰れない場合は、別途宿泊場所の確保及び手当の支給等の用意をお願いします。
最終日の研修終了時刻は、12:30頃です。なお、最終日の昼食は研修経費に含まれておりません。
- 6 受講申込みの取消等について
この受講決定通知受領後の受講申込みの取消（受講辞退）は、原則として認めません。疾病その他真に止むを得ない事由により、受講が困難となった場合や受講者を変更しなければならないこととなった場合には、直ちにその旨を当研修所（教務部）に連絡してください。
なお、受講辞退となった場合であっても、ご負担いただく経費（手配済物品の費用等）が発生することがありますので、ご了承ください。
- 7 途中退所について
研修期間中、受講者に、他の受講者等に著しく迷惑を及ぼす行為、研修所の規律を乱す行為その他公務員としてふさわしくない行為が認められる場合は、貴職に通知したうえで、退所を命ずることがあります。
- 8 インフルエンザ等への対応について
当研修所では、集団研修を実施している組織として、感染症等の予防の徹底等に努めているところですが、受講者の安全性の確保が必要ですので、これらに該当する方の受講をご遠慮いただくことがあります。あらかじめご了承ください。
- 9 問い合わせ先
全国市町村国際文化研修所（JIAM）
【研修に関すること】 教務部 TEL 077-578-5932 担当： ■■■、■■■
【経費納入に関すること】 経理課 TEL 077-578-5931

令和元年度「第3回市町村議会議員特別セミナー」

(敬称略)

月日	曜日	1時限 (9:25-10:35)	2時限 (10:50-12:00)	3時限 (13:00-14:10)	4時限 (14:25-15:35)	5時限 (15:50-17:00)	課外 (17:00-)
1/27	月		11:00-12:00 受付 11:00- 昼食 13:00- 開講式 日程説明	【講義】 (13:10-14:40) 社会福祉と財政システム 京都大学大学院 経済学研究科 /地球環境学 堂 教授 諸富 徹	【講義】 (15:05-16:35) 超高齢社会の現状と 地域包括ケアシステムに よるまちづくり 東京大学高齢社会 総合研究機構 特任教授 辻 哲夫	16:35- 入寮 オリエンテーション 17:30- 交流会	【食堂】
1/28	火	【講義】 (9:00-10:30) 児童福祉の現状と課題 関西大学人間健康学部 人間健康学科 教授 山縣 文治 【講義】	【講義】 (10:50-12:20) 障がい者の就労と 暮らしの支援について 東近江圏域働き・暮らし 応援センター “Tekito-” センター長 野々村 光子 【講義】	12:20-12:30 閉講・事務連絡			

◎日程は、都合により変更になる場合があります。

(令和元年12月20日現在)

名札の色： 色、研修担当：

令和2年1月27日(月)
3時限 諸富氏



京都大学
KYOTO UNIVERSITY

令和元年度市町村長・議員等研修「第3回市町村議会議員特別セミナー」

社会福祉と財政システム

令和2年1月27日(月)

13:10~14:40

全国市町村国際文化研究所(JIAM)

諸富 徹(京都大学)

令和2年1月27日
4時限 辻 氏

超高齢社会の現状と地域包括ケアによるまちづくり

東京大学高齢社会総合研究機構

辻 哲夫

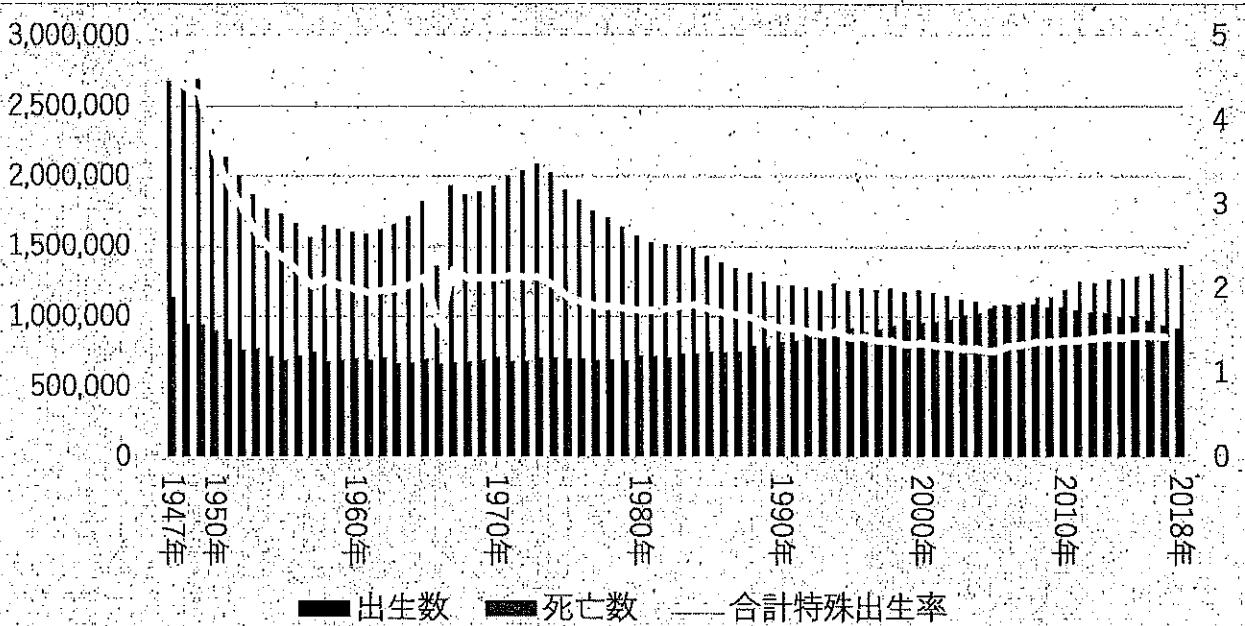
児童福祉の現状と課題

関西大学 山縣文治

1. 子育て施策をめぐる環境

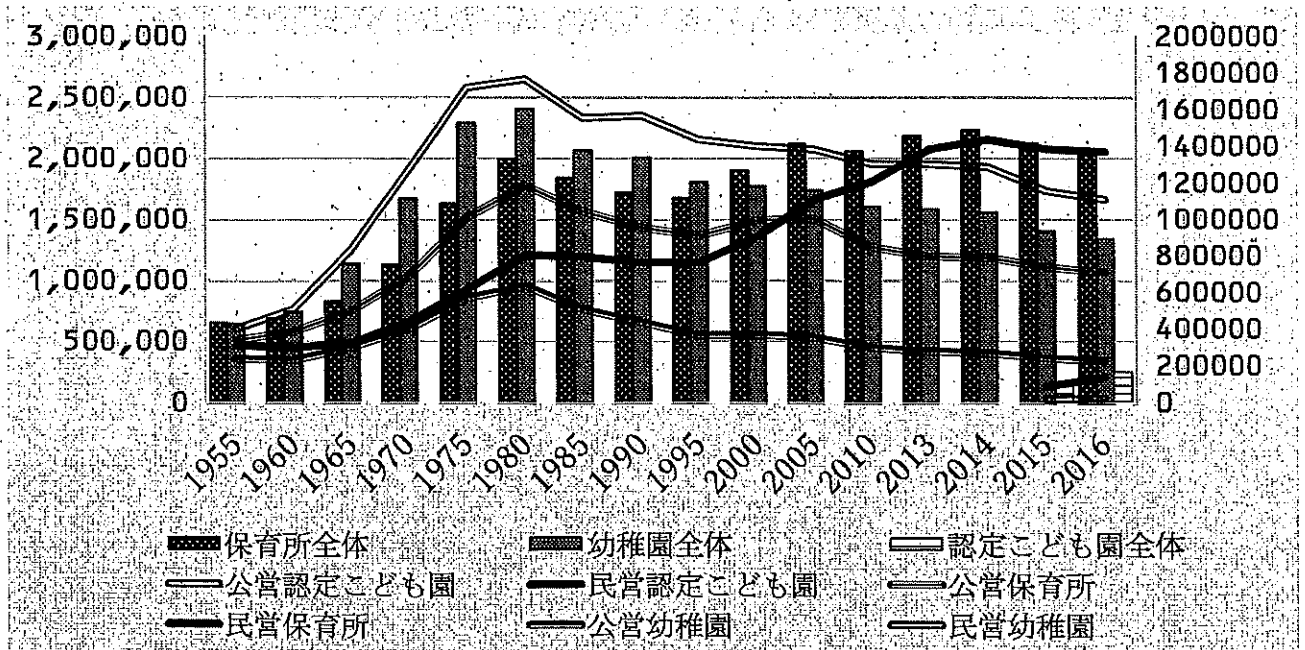
1) 2040年市町村はどうなっているか

2) 人口はどこまで維持できるのか



国政・社会

3) 保育所・幼稚園はどうなってきたのか



“10年後の彼を見つめた就労支援”

～未来への下ごしらえ～

東近江圏域 働き・暮らし応援センター“Tekito-”
野々村 光子

「あの～…これで、うちの息子を働かせてもらえんやろか？」
70歳を超えたと見える女性。土の付いた大根が三本入ったナイロン袋を差し出しながらうちのセンターのドアを開けた。
息子は大学卒業後、大手の電機メーカーへ就職したが3か月で辞め、2年間は職を転々としたがその後、自宅の自室のみで生きる暮らしを送ってきたとの事。現在45歳。
滋賀県の琵琶湖と山の間位置する、田舎な地域ではこんな「働かせたい」と「働きたい」と「働きたくない」声の毎日聞こえる。
そんな小さな声を、地域の当たり前、そしてそんな彼らの人生のものがたりが地域の未来を創る仕組みを田舎なこの町に仕掛ける。

“働くという事”

私たちは毎日たくさん

「働きたい」と出会う。

その「働きたい」思いには

色んな意味がぎっしり。

家族への愛や自分のヘタクソや

自慢したい気持ち。

稼いだお金で居酒屋へ…

彼らの「働きたい」と出会う度、

「働くこと」が持つ力の

大きさに驚き、学ぶ。

また「働くこと」は

単なる作業ではなく、

生きる力を育むステージ…

そんなステージに立つ姿は

誰もが真剣、誰もがカッコイイ、

誰もがほんまもん。

輝く場所がここにある。

Tekito-

「なんで面接落ちるんやろう…」

「働くことが分からん…」

「働きたくないねん…」

「もっと、気張りたいねん…」



アメニティーフォーラム24

- 映画「閉鎖病棟～それぞれの朝」の平山秀幸監督をお迎えして
目や耳が不自由な方が人生を豊かにする映画の鑑賞を楽しめるように UDCast という鑑賞技術を開発しアイフォンやメガネ型端末を使って字幕だけでなく多言語や音声ガイドを同期させて実現。精神科医を務める帚木蓬生の山本周五郎賞受賞作『閉鎖病棟』を平山秀幸監督・脚本で映画化。他人である人々が、家族以上に支え合い心を通わせて希望を持って生き続ける。
- 命が大切であること、を言い切る～生産性よりも必要性！～
- このフォーラムに集う人達へのメッセージ～荒野を目指そう、僕はその先で待つ～野澤和弘
糸賀一雄先生は、戦後間もない本当に荒廃した 社会状況の中で、戦災孤児と知的障害のあるお子さんたちのために福祉施設近江学園を創設され、障害の問題を通してあるべき社会を訴え続けられた。わが国の知的障害者の父とも呼ばれ大きな足跡を残された。どんな重い障害のあるお子さんにも必ず発達する力があり、それを保障する必要があるという論理を明らかにされ「この子らを世の光に」という強いメッセージを後世に残された。
津久井やまゆり事件の被告植松聖が言う生産性のない障害者は社会のお荷物と存在することを否定。生産性とは何か、貨幣価値ではない。人は生きていてだけで価値があり、命はあるがままで尊い。変わらなくてはならないのは社会であり、役立つか否かで選別、排除する社会に未来はない。
- 分身ロボット「OriHime」の衝撃～寝たきりの障害者が、介護や接客をする未来～吉藤健太郎
「誰かの役に立つことをあきらめない」「寝たきりで声を失っても会話できる」「今の自分に合った働き方ができる」OriHime は、距離も障害も昨日までの常識も乗り越えるための分身ロボット。喜怒哀楽様々に見えてくる能面を参考にデザインし利用者の表情を想像でき徐々に OriHime が本人に見えてくる。登録されたモーションと自由に動かせる腕が感情表現を豊かにする。ALS 等の難病や重度障害で外出困難な人々が遠隔操作で実際に分身ロボット「OriHime」を動かし、サービススタッフとしてカフェを運営するプロジェクトは、「動けないが働きたい」と思う人々がいることを知ってもらうことと共に、人々の社会参加を妨げている課題をテクノロジーによって克服していく為の試みとして、社会そのものの可能性を拡張している。テクノロジーは、手段であり人の役に立てることが喜び。
- 服役 11 回・刑務所に半世紀の男性、生き直しを支えるもの～刑務所にしか居場所がない人がいます
多くの障害者がいる。福田九右衛門さん(87)は、人生の半分以上を刑務所で過ごした。軽度の知的障害があるものの、障害福祉サービスとつながったことはなかった。身元引受人はおらず、出所するたびホームレスになっては、刑務所に戻るため犯罪を繰り返した。しかし、2016 年に出所したときは違った。ホームレス支援の NPO が出迎えてくれた。現在、北九州市内の施設で暮らす。
「僕は今、幸せです」もう刑務所には戻らないと誓っている。
寒かった。2 回の万引きをするが逮捕なく、刑務所に帰りたかったので、放火で逮捕され、懲役 11 年の判決に対して「ありがとうございました。」と言った。療育手帳につながらなかった 一番辛かった日は、父から子どもころ火のついたマキで、お腹をおお火傷させられ、父と火を憎んでいた。10 回の刑務所の出所を誰も迎えに来なかったことが一番辛かった。一番幸せだった日は、父と一緒にいた日、ひとりぼっちは嫌だ。下関駅放火事件は、福田さんが福岡刑務所を出所して 8 日後の出来事。福田さんは「刑務所に戻りたい」と万引きを繰り返すなど、この短期間に警察や区役所、福祉事務所など 8 つの公的機関と接触している。しかし、どこも対応できなかった。だからといって放火が許されるわけではないが、事件は司法と福祉の連携不足など、多くの課題を浮き彫りにした。つながりの量的支援、居場所と役割が大事で「太いロープではなく、細い糸みた

いなものが何百本もの絡みの中で生きていくのが共生社会。資格がある人が集まって、『よっこらせ』とやっているわけじゃない。どれだけ多くの人の中で、ごまかしごまかし絡めていくかである。

● 医療的ケアを必要とする人への支援の最前線 山本ひろし

東松山市地域自立支援協議会の「重症心身障害児・者の生活を支えるプロジェクト」は、重症心身障害児・者である本人の意思を支援者が共有して、本人と支援者が共働してそれを形にしていくことで、結果としてその人の存在価値が地域社会に貢献することとなるような取り組みを考える目的で設立。どうすれば医療的ケアを必要としている人に必要なケアを届ける事ができるのか。連携とは単に仲良くすることではなく、例えるならば本人が必要としている10のハードルを1人で超えるのではなく、10人で超えたい。家族の行っている医療的ケアすべてを行うという発想は10のハードルを介護職だけで超えようとするやり方です。一方、坐薬の挿入にも躊躇する事業所にはハードルを一つだけ超えて欲しい。そのかわり、その事業所をサポートする医療があり、マニュアルがあり、本人と一緒に支援する事業所もいる。10のハードルを越える10の仲間がいること、それが連携のイメージで、連携が広がることで地域全体が大きな一つの事業所のようにないと良いです。東松山市は、1990年ごろより、ノーマライゼーションの理念に基づいたまちづくりに積極的に取り組んできました。1996年に障害児保育要領を策定、保育士の加配を制度化し、地域の保育園における障害児の受け入れ体制を整えていった。結果として、障害のある子どもは地域の保育園に通うようになり通園施設の利用者は激減し、2008年、通園施設は閉園した。インクルーシブ保育の実践が定着し、その結果、地域の小中学校への進学を希望する障害児が増加した。1996年の障害児保育要領に続き、同年には介助員要領が策定され、保育園・幼稚園及び小学校において、日常生活の介助や教室移動等における誘導を必要とする障害児に介助員を配置することが可能になった。さらに、2007年には学校における看護師の配置が制度化され、医療的ケアが必要な子どもも、親の付き添いなしで保育園・幼稚園及び学校に通えるようになり、東松山市ではインクルーシブ保育・インクルーシブ教育が進展している。

● バリアフリー映画「インディペンデントリビング」

大阪にある自立生活センター、ここは、障害者の当事者が運営し日常時に介助を必要とする人に対して、一人暮らしが出来るように支援する。様々な障害を抱えながら、家族の元や施設ではなく、自立生活を希望する人たちが自由と引き換えに、リスクや責任を負うことになる自立生活は、命がけのチャレンジです。家族との衝突、介助者とのコミュニケーションなど課題も多く、時に失敗することもある。しかし、自ら決断し、行動することで、確実に変化をしていく。監督は自らも介助者として働く田中悠輝である。障害当事者から「自分たちの姿を撮って欲しい」という声を受け、自立支援の現場で3年にわたり撮影を続けた。彼らとの関わりを通して、自分自身の内に「障害者」という勝手な枠組があると気づいた監督が、その枠組を壊し、自分を社会を変えていこうと奮闘する姿を見つめ、生きづらさを抱えた人たちが、自分らしさを取り戻す瞬間とその輝きを映像にした。

● 地域生活支援にまじめに取り組んできたら…経営が苦しくなりました！

社会福祉法人清心会では、誰もが地域の中で、その人らしく、幸せを感じながら、機嫌よく暮らせる「共生社会」をめざす。基本方針・豊かに暮らす、その人のゆとりとぬくもりのある居住空間を創出する。・楽しく働く、その人がやりたい仕事、やれる仕事を創出する。・元気に遊ぶ、その人のスポーツ、文化活動、遊びを創出する。・長く支える、その人をささえ続けるシステムを創出する。・ともに育つ、その人とひかり輝ける力を創出する。「まちで働き、まちで暮らそう」が目標。地域支援には、人とお金と情熱が必要であり、現状は、課題が山積している。

● アールブリュット—日本人と自然展

フランスのジャン・デュビュッフェ (Jean Dubuffet 1901—1985) という芸術家が考案した言葉で、日本語に訳される場合には一般的に「生の芸術」とされ、「美術の専門的な教育を受けていない人が、伝統や流行などに左右されずに自身の内側から湧きあがる衝動のまま表現した芸術」と解釈されている。多彩な方法により生み出される作品には、この世界を構成する万物の色、音、風景などが凝縮した形となって溢れています。それぞれの芸術作品から伝わる魅力に感動しました。

● バリアフリー映画「閉鎖病棟」

長野県の精神科病院にいる、それぞれの過去を背負った患者たち。母親や妻を殺害した罪で死刑判決を受けたものの、死刑執行に失敗し生きながらえた梶木秀丸。幻聴が聴こえて暴れるようになり、妹夫婦から疎まれて強制入院させられた元サラリーマンのチュウさん。父親からのDVが原因で入院することになった女子高生の由紀。彼らは家族や世間から遠ざけられながらも、明るく生きようとしていた。ある日、秀丸が院内で殺人事件を起こしてしまう。そこには、優しく自己犠牲もいとわれない人々の思いがあるが故であった。

● アールブリュット、クリエーション、日本～障害者の芸術文化振興

ナント市は、フランスでかつて貿易、造船業において栄えたロワール川沿いの町で、「現代アートの町」として生まれ変わった人気の観光地。芸術・文化の町として高く評価され、近年ではフランス人が選ぶ「最も住みたい町」の上位にランキングされている。ジャン・マルク・エロー元市長が、文化で町おこしをして再生させた。古いお菓子工場を再生し文化を息づかせ、低所得者をアールブリュット展に招待し文化の大衆化を実現した。建築学校や美術学校の建設。ロアール川の中に美術作品を設置し街中がアート作品で溢れた。大事なものは、市民の連帯と居場所づくりである。

● 張り切って参りましょう！作る法律、見直す法律

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、全ての国民が共生する社会の実現を目指し全国において更にバリアフリー化を推進する。

● この国の未来がなくなる？子どもの支援を本気で考えよう

「明石市の子どもの支援の取組」1.すべての子どもたち（貧困家庭だけでなく）を誰一人として見捨てない。2.まちのみんなで（親だけの責任ではなく）行政も地域も一緒にやる。3.こども目線で（行政目線や親目線ではなく）その子に寄り添う。4.本気で応援（予算の範囲内ではなく）あれもこれも本気で。子どもは、支援が必要であり、親と共に社会で支援する優しい街が強いまち。2019年に市の児童相談所を開設し職員数は、国基準の2倍を配置。「明石こどもセンター」として子ども支援センターとこども図書館を併設し一時保護所も同時に整備。「こどもスマイル100%プロジェクト」では、乳幼児健診ごとに子どもの顔を見て子どもの状態を100%把握する。「あかし版こども食堂」では、全28校区に開設し42カ所で運営。子どもの居場所であり気づきの拠点、児童相談所のケースワーカーがこども食堂とつながり早期の気づきを活かす。虐待リスク確認のチェックリスト作成により早期の連絡が増加。24時間子育て相談ダイヤル、こどもからの相談ダイヤル、ショートステイ事業、里親開拓により全28小学校区での里親配置と乳幼児の委託率100%への取組み。「こどもを核としたまちづくり」すべての子どもたちを、みんなで、本気で応援すれば、まちは発展する。

● 私たちは「C型就労」を進めます

非公式ながら、就労継続支援C型という新たな概念を生もうという働きがごく一部で興っています。政府公認ではありませんが、就労継続支援にもう一段階追加することで幅広い目的に沿えるのではないかという主旨です。就労継続支援C型のCにはコミュニティという意味も込められてい

る。作業所が地域のニーズや悩みに応えることで、障害者と地域のコネクションを確立しつつ共に地域づくりを行っていくという理念があります。障害の程度・能力・意志などの都合で継続支援や移行支援すら難しい障害者の「受け皿」「居場所」として、C型の公認には大きなメリットがある。C型にも障害者と地域のコネクション構築という使命があり、地域に出て活動していく必要があります。根底にあるのは「障害者は何もできない」という固定観念で、そうした誤解を払拭するにあたってC型のように障害者と地域を繋げる働きは最も重要となる。

● 世界の栄養課題の変わり目を日本がリード～「障害と食」の研究がそれを実現する～

人間は、パンダのようにササの葉だけでは生きていけません。特定の食品だけでは、全ての栄養素を必要量だけ確保することができないからです。私たちは、いろいろな食物を組み合わせ、必要な栄養素を取る雑食性を選択してきました。雑食をしたから、何度もの飢餓を乗り越え、地球のあらゆるところに生存でき、それぞれの環境に適応しながら、進化できたのです。しかし、この方法には、一つの課題があります。それは、種々の食品の中から、適正に選択できる知恵と能力を身に着けることです。このことを科学的に解明し、その方法を教えてくれたのが栄養学です。低栄養で起こる問題は、心身の発達低下、活動能力の低下、病気にかかりやすい、病気の回復の遅れ、免疫力の低下、薬の効果の低下、医療費・介護費の増大、結局は長生き出来ない。神経障害は、脳の神経伝達物質の異常で起こる。これらが適正に分泌され作用するには各栄養素がバランスよく摂取されることが必要。自律神経を乱さない食生活、食習慣の改善も必要。日本人の食事のバランスのよさが長寿をささえているが、これは偶然できたものではなく、食生活を大切に、健康的な食事にしようとした日本人の努力があったからである。

● 高次脳機能障害セッション障害があるから許されるのかという問いに～脳とダメージと生活と脳損傷友の会高知青い空の設立。 事故や病気で脳を損傷し、その後遺症として高次脳機能障害をもつ当事者および家族に対して、高次脳機能障害についての正しい知識や情報の提供、及び社会参加を促進するための事業等を行うことで、当事者の日中活動の場を確保し、当事者・家族が安心して生活できる環境を整え、併せて社会の理解を得るための活動を行うことを目的に設立されました。障害者総合支援法の第3章では、都道府県は、高次脳機能障害者への支援拠点機関および支援コーディネーターを配置し、高次脳機能障害者に対する専門的な相談支援、関係機関との地域支援ネットワークの充実、高次脳機能障害に関する研究等を行い、適切な支援が提供される体制を整備すること。また、自治体職員や福祉事業者等を対象に研修を行い、地域での高次脳機能障害者支援の啓発と普及を図ることが定められていますが、高次脳機能障害支援法の早期成立を望みます。

● 良い加減に生きられないあなたへ 北山修 (精神科医・作詞家)

私たちには、「矛盾するものを束ねて扱う能力」が必要。日本語は、曖昧でいろいろな意味を持っているので良い。「いい加減」は良い加減を共存させている。肯定しながら否定することが同時存在する領域がある。日本人は、いろいろな顔を同時存在出来るそのいい加減さが、健康を支えている。その実践として、「遊びながら考えること」むかし、学校(勉強)と遊園地(遊び)は同じところにあった。その実践には「抱える環境」が必要。「ながら」は悪いことのように感じる。そしてそれは、不純だから、矛盾するから、割り切れない。だから、その意義がわかれば、一本化して実践できる。話しながら考える。それが愉快なのは、自由に考えることと話すこととの二つが、良い加減に出会うが、この出会いは普段は無理です。親は、「勉強するか遊ぶかどっちかにしなさい」と言ったが、ながら族のごとく、私たちは歌いながら勉強したかった。歌と考えることが同じところにあることは、もっとも自分が自分らしいことである。結論は、「遊びながら考えるのは悪くない」作詞家であることは遊戯療法だった。そこで歌うことと考えることが両立する時、自分が一番まとまっていると感じた。話しながら食べ、遊んで考えるという、退行と進行の併存が大事である。

領収書等添付用紙

議員名

近森正利

調査研究費・研修費・広報費・広聴費・会議費・資料作成費・資料購入費
人件費・事務所費

(該当項目に○をつけてください。)

ご利用明細票

お取扱日	店番	お取引内容
01-12-26	22082	通帳送金
記号	番号	
*****	*****	
取扱番号	お取引金額	
N057	*57,000	
	残高	
	*119,739	
関西みらい銀行 甲西支店 普通		
アメニティフォーラムシツウイソカイ シ ムキヨクチヨ		
送金料金	*440円	
振込予定日	01-12-26	
338チカモリマサトシ		

ご利用いただきましてありがとうございました。

—— ゆうちょ銀行 ——

研修参加費 20,000円
宿泊費 2泊 37,000円
口座振込手数料 440円
} 57,440円

旅程明細書

No.

旅行者	所属	伊賀市議会	氏名	近森 正利
用務名(目的・場所)	アメニティーフォーラム24			
	(滋賀県大津市:びわ湖大津プリンスホテル)			
用務従事期間 (時間)	従事 月日	2月 7日	従事 時間	12:00 ~ 0:23
		2月 8日		8:15 ~ 23:00
		2月 9日		8:30 ~ 12:45

出張 月日	出発地 (出発箇所)	交通 用具	到着地 (到着箇所)	鉄道賃・船賃・航空賃・車賃			小 計	日 当	宿泊料	夕食代	朝食代						
				路程	運 賃	急行料金											
2月7日	自宅	自家用車	びわ湖大津プリンスホテル	km 49.2	円 532	円	円 532	円 1,500	円 14,800	円 込	円 込						
2月8日																	
2月9日	びわ湖大津プリンスホテル	自家用車	自宅	49.2										1,500			
計							円 532	円 4,500	円 29,600	円	円	円					
							合計	円 34,632									

※ 宿泊料は18,500円であるが、上限額14,800のみ請求する。

アメニティーフォーラム24 申込内容確認書 兼 請求書

FAX 0595-23-8567

2019年12月17日 受付

近森 正利 様

この度は、アメニティーフォーラムへの参加申込を頂きまして、誠にありがとうございます。
 下記の内容にてお申込みを受付いたしました。
 内容・費用をご確認のうえ、本状到着後7日を目安に下記口座にお振込み頂きますようお願い申し上げます。なお、内容に間違いや変更がある場合には下記までご連絡下さい。

■申込内容

受講番号 (お問合せ番号)	お名前	2/7(金) 交流会	2/8(土) 昼食 夕食	宿泊	備考
------------------	-----	---------------	-----------------	----	----

338	近森 正利 様	×	×	×	2/7(金) 1名1室利用 B 2/8(土)-1名1室利用 D 禁煙

■費用について

※宿泊費は、のべ泊数で計算をしております。

参加費	¥20,000 × 1 名	＝	¥20,000
宿泊費	1名1室利用A	¥19,500 × 泊	＝
	1名1室利用B	¥18,500 × 2 泊	＝ ¥37,000
	2名1室利用A	¥11,500 × 泊	＝
	2名1室利用B	¥10,500 × 泊	＝
	3名洋室利用	¥8,500 × 泊	＝
	4名洋室利用	¥8,000 × 泊	＝
4名和洋室利用	¥9,000 × 泊	＝	
2/7(金) 交流会	¥10,000 × 名	＝	
2/8(土) 昼食代	¥2,500 × 名	＝	
2/8(土) 夕食代	¥3,500 × 名	＝	
費用合計			¥57,000

■お振込み先

かんさい せいせい
 関西みらい銀行 甲西支店 普通
 アメニティーフォーラム実行委員会
 ぶしたに まさど
 事務局長 牛谷 止人

■お問い合わせ先

アメニティーフォーラム実行委員会事務局
 〒520 3202 滋賀県湖南市西峰町1-1
 TEL 0748-75-8210 FAX 0748-75-8270
 担当

お振込の際には、受講番号(お問い合わせ番号) 338 からご入力下さい。
 所属団体名でお振込される場合は、(福)とするなど、出米るだけ省略くださいますようお願い致します。
 領収書は原則として発行いたしません。銀行等の振込明細書をもって領収書に替えさせていただきます。
 ※なお、振込手数料はご負担いただきますようお願い申し上げます。

■プログラムの最新情報について

※プログラムの最新情報を、下記でご案内しております。どうぞご利用ください。

<http://amenity-forum-shiga.blogspot.jp/>
 アメニティーフォーラム 特設ブログ

令和2年1月29日

伊賀市議会議長 様

議員名

(自家用車提供者) 近森 正利

政務活動費自家用車使用届 (車賃計算書)

下記のとおり、調査研究等のため自家用車を使用しますので届け出ます。

調査年月日	令和2年2月7日(金)～2月9日(日)		
目的地 (調査研究等場所)	びわ湖大津プリンスホテル		
調査研究等の内容	アメニティーフォーラム24		
自家用車使用経路	出発地	自宅	
	到着地	滋賀県大津市	
自家用車を使用する理由	所要時間が短縮でき、効率的かつ経済的である。		
同乗者			
自家用車の車種	ダイハツ ウェイク	高速・有料 道路利用	有・ <input type="checkbox"/> 無
型式	DBA-LA700S	有料駐車場 利用	有・ <input type="checkbox"/> 無

以下、事務局記入欄

自家用車使用経路 (出発地～到着地)	走行距離 (km)	燃費値 (km/L)	自動車燃料 単価 (円)	ガソリン代 (円)
	A	B	C	$A \div B \times C$
自宅(東高倉)～びわ湖大津 プリンスホテル(往復)	98	25.4	138	532
～				
～				
合 計				532 円

(算出根拠)

※走行距離は、ルート検索ソフト等の地図上で計測する。(km未满是切り捨て)

※燃費値は、国土交通省が公開する「自動車の燃費性能に関する公表」による。

※自動車燃料単価は、出発日の属する月の市の契約単価による。

12:00 ごあいさつ 田中正博 (アメンティフォーラム実行委員会代表) 大原裕介 (全国地域生活支援ネットワーク代表) 北岡賢剛 (全国地域生活支援ネットワーク代表) 尾上浩二 (DPI日本会議副議長) 玉木幸則 (NHK Eテレパリアラコメンター)

12:15 オープニングトーク 映画「閉鎖病棟—それぞれの朝—」の平山秀幸監督をお迎えして 聞き手: 山上徹二郎 (バリアフリー映画祭2020プロデューサー)

12:50 命が大切であること、を言い切る ~生産性よりも必要性!~ 辻哲夫 (糸賀一雄記念財団理事長) 笠原吉孝 (糸賀一雄記念財団理事) 潮谷義子 (社福) 慈愛理事長 進行: 奥田知志 (特非) 抱擁理事長

13:50 このフォーラムに集う人達へのメッセージ ~荒野を目指そう、僕はその先で待つ~ 野澤和弘 (毎日新聞客員編集委員)

14:50 分身ロボット「OriHime」の衝撃 ~寝たきりの障害者が、介護や接客をする未来~ 吉藤健太郎 (オリ研究代表取締役CEO) 岡部宏生 (日本ALS協会理事) 新御代太一 (社福) クロウのたに支援員

15:00 未安民生プレゼンツ! こころのセッション 場を育むためのリフレクティング ~対話を阻んでいる関係性に気づく~ 矢原隆行 (熊本大学法学部教授) 聞き手: 未安民生 (岩手医科大学看護学部地域包括ケア講座教授)

16:15 服役11回・刑務所に半世紀の男性、生き直しを支えるもの ~刑務所にしか居場所がない人がいます~ 福田九右衛門 奥田知志 (特非) 抱擁理事長 進行: 田島良昭 (社福) 南高愛護協会顧問

16:50 1.名古屋城にエレベーターを設置すべきです。2.障がいのある方の「苦」に「害」に替えるべきだと思います。尾上浩二 (DPI日本会議副議長) 平下耕三 (自立生活歩道センター代表) 玉木幸則 (NHK Eテレパリアラコメンター) コメンター: 宮路拓馬 (衆議院議員) 進行: 光真坊浩史 (品川児童学苑施設長)

17:25 医療的ケアを必要とする人への支援の最前線 前田浩利 (医療法人財団はるたか会・理事長) 本後健 (厚生労働省障害児・発達障害者支援室長) 田口純子 (後援) フラット理事 片桐公彦 (厚生労働省障害福祉課待機型専門官) 山本ひろし (伊福議員) 新・丹羽彩文 (全国地域生活支援ネットワーク理事)

17:45 「多様性」の次のステージへ ~「パリアラ」を振り返りながら議論する~ 玉木幸則 (NHK Eテレパリアラコメンター) 森下光泰 (NHK Eテレパリアラチーフプロデューサー) 古川康 (衆議院議員) 進行: アサダワタル (文化活動家、(社福) 慶成会アートディレクター)

18:50 チェックインなど

21:00 厚生労働省障害保健福祉部長: 橋本泰宏さんに聞く 私たちが気になっている あのこ、このこ 久保厚子 (全国手をつなぐ育成会連合会会長) 片岡保憲 (特非) 日本高次脳機能障害者の会理事 未安民生 (岩手医科大学看護学部地域包括ケア講座教授) 水尻源彦 (徳島大学) 新・小田泰久 (全国地域生活支援ネットワーク事務局)

22:10 障害者虐待をした施設を裁くだけで、解決になるのか? 林晃弘 (社福) フラット理事 片桐公彦 (厚生労働省障害福祉課待機型専門官) コメンター: 中根康浩 (元衆議院議員) 進行: 曾根直樹 (日本社会事業大学専門職大学院准教授)

23:25 シンポジウム 伊原和人 (厚生労働省政策統括官 総合政策担当) 尾上浩二 (DPI日本会議副議長) 大原裕介 (全国地域生活支援ネットワーク代表) 藤岡たかまる (参議院議員) たきなみ宏文 (参議院議員) 進行: 田中正博 (全国手をつなぐ育成会連合会代表)

大交流会 21:00 「地域共生社会」の実現に向けて 基調講演① 「2040年」から「地域共生社会」を考えると 伊原和人 (厚生労働省政策統括官 総合政策担当) 基調講演② 私が考える「共生社会」とは 尾上浩二 (DPI日本会議副議長) 基調講演③ 「地域共生社会」の実現例をお伝えします 大原裕介 (全国地域生活支援ネットワーク代表) シンポジウム 伊原和人 (厚生労働省政策統括官 総合政策担当) 尾上浩二 (DPI日本会議副議長) 大原裕介 (全国地域生活支援ネットワーク代表) 藤岡たかまる (参議院議員) たきなみ宏文 (参議院議員) 進行: 田中正博 (全国手をつなぐ育成会連合会代表)

7:00 国会議員との朝食会 (1) (先着50名) ~政治に対する希望と皮肉も言おう!~ ... 要望でも何でも、遠慮なく喋ってみよう... ※責任は実行委員会がとります。 参加費: 1,500円 (要: 申し込み、参加費は当日、集めます) モデレーター: 野澤和弘 (毎日新聞客員編集委員) 山上徹二郎 (アメンティフォーラム映画祭プロデューサー) 水尻源彦 (全国地域生活支援ネットワーク)

8:00 地域生活支援にまじめに取り組んできた... 経営が苦しくなりました! 報告①: 入所施設の小規模化を進めたら... 岡部浩之 (社福) 社会福祉協議会 報告②: 地域生活支援拠点の整備を頑張ったら... 野口直樹 (総合センター) 報告③: 強度行動障害の暮らしを支えたら... 松上利男 (社福) 子どもの未来 進行: 又村あおい (全国手をつなぐ育成会連合会政策センター委員)

8:30 「老いをズラしてヒラキ場づくり」~演劇、映画、メディアづくりを事例に~ 菅原直樹 (俳優、介護福祉士、「老いと演劇」OIBokkeShi主宰) 孫大輔 (家医、「谷根千まちは健康プロジェクト」主宰) 猪狩僚 (いわき市役所保健福祉部地域ケア推進課、Iigoku) 編劇 進行: 伊原和人 (厚生労働省政策統括官 総合政策担当) 新・アサダワタル (文化活動家)

9:00 若草プロジェクトのその後 ~SOSを心に抱えた少女や若い女性たちに寄り添う~ 村木太郎 (一社) 若草プロジェクト理事

10:30 全世代型の社会保障のあり方 ~その財源はどこから調達するのか~ 鈴木彦彦 (厚生労働省次官) 横倉義武 (日本医師会長) 進行: 野澤和弘 (毎日新聞客員編集委員)

11:45 人生のしまい方、日々の暮らし ~人生会議と障害のある人の意思決定支援~ 矢野美代子 (特別養護老人ホームふくらみふくらみ副所長(生活相談員)) 金森樹子 (特別養護老人ホームふくらみ看護主任) 清水明彦 (西宮市社会福祉協議会常務理事) 助言者: 蒲原基道 (厚生労働省事務次官) 進行: 曾根直樹 (日本社会事業大学専門職大学院准教授)

12:45 食・食・休憩

13:30 アール・ブリュット、クリエイション、日本 ~障害者の芸術文化振興議員連盟と知事連盟の皆さんにもご参加を頂いて~ 第1部 青柳正規 (前文化庁長官) ジャン=マルク・エロ (元フランス首相) 進行: 野澤和弘 (毎日新聞客員編集委員) *知事連盟の出席者は現在調整中です。 第2部 衛藤晟一 (一億総活躍担当大臣) 高木美智代 (衆議院議員)、古川康 (衆議院議員) 三日月大造 (滋賀県知事) 平井伸治 (鳥取県知事) 進行: 大原裕介 (全国地域生活支援ネットワーク代表)

14:55 加藤厚生労働大臣に聞く 聞き手: 野澤和弘 (毎日新聞客員編集委員)

15:20 張り切って参りましょう! 作る法律、見直す法律 衛藤晟一 (一億総活躍担当大臣、参議院議員) 高木美智代 (衆議院議員) 進行: 渡邊芳樹 (元スウェーデン全権大使) 副進行: 尾上浩二 (DPI日本会議副議長) 鈴木智敬 (名古屋大学) 久保厚子 (全国手をつなぐ育成会連合会会長)

16:20 女性が輝く? 女性活躍? ちょっとだけ喋ります、私たち ~どなたでも安心してお聞きいただけます~ 櫻井(藤井)龍子 (元高松市役所元厚生労働省女性局長) 田端一恵 (社福) 全日本学生福祉協議会 新・岡山慶子 (特非) 抱擁理事長

16:30 よくぞ立ち上げてくれました! 「全国居住支援法人協議会」 シンポジウム① 解決を求めない伴走型支援の充実を 奥田知志 (特非) 抱擁理事長 野崎伸一 (厚生労働省大臣官房副総務課広報室長) 藤森充彦 (日本福祉大学福祉経営学部 教授) シンポジウム② 居住支援とは何か ~「人が家に住む」をもう一度考える~ 大月敏雄 (東京大学大学院工学系研究科建築学教授) 奥田知志 (特非) 抱擁理事長 村木厚子 (津田塾大学客員教授) 進行: 高原伸幸 (厚生労働省中国四国厚生局)

19:20 食・食・休憩

20:30 私たちは「C型就労」を進めます!! 講演 C型就労の意義についてお話しします 若上洋一 (全国地域で暮らすネットワーク代表) 雑談① C型就労の具体的な取り組み 竹嶋信洋 (特非) ベストサポート社長 雑談② 山梨県下のスターバックスで「アール・ブリュット」の展示展開! 瀧澤穂 (山梨アール・ブリュットネットワークセンター代表) コメンター: 源河真規子 (厚生労働省障害福祉課長) 新・又村あおい (全国手をつなぐ育成会連合会政策センター委員)

21:00 精神科医療の使い方: お互いがWin-Winになるために ~家族・支援員・PSW・医師の立場から~ 小島幸子 (栃木県手をつなぐ育成会会長) 伊藤未知代 (横浜市総合保健医療センター 室長) 名雪和美 (厚生労働省事務次官) 7/6/4 - 蒲原基道 (厚生労働省事務次官) 新・田島光浩 (南高愛護会理事長、特非) 抱擁理事長

22:15 自立生活援助の魅力を語る ~病院、施設やCHを出る事がゴールではなく、どう生きるかが重要~ 松村真美 (社福) 南高愛護会理事 有野哲章 (社福) 遠東会理事長 田村綾子 (聖学院大学心理学部教授) 吉野智 (厚生労働省福祉専門官) 進行: 岡部正文 (一社) ソラティオ代表理事

7:00 国会議員との朝食会 (2) (先着50名) ~政治に対する希望と意見を言おう!~ ... 要望でも何でも、遠慮なく喋ってみよう... ※責任は実行委員会がとります。 参加費: 1,500円 (要: 申し込み、参加費は当日、集めます) モデレーター: 又村あおい (全国地域生活支援ネットワーク) 大原裕介 (全国地域生活支援ネットワーク代表) 福島龍三郎 (全国地域生活支援ネットワーク)

8:30 世界の栄養課題の変わり目を日本がリード ~「障害と食」の研究が目を惹く~ 中村丁次 (日本栄養士会会長、特非) 川原健雄 (東京大学) 知能: 米澤文雄 (レストランTHE BURR) 相見 井上瑞菜 (障害者の食と文化活動推進研究会) 聞き手: 岡山慶子 (障害者の食と文化活動推進研究会)

10:00 地域共生社会に向けて相談支援は包括的に ~丸ごと相談は障害者支援の質を高めるか~ 講演 地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働に関して 朝川知昭 (厚生労働省 参事官 総合政策統括担当) 報割りを越えてニーズを受け止める「断らない」相談 藤川雄一 (厚生労働省障害福祉課 相談支援専門官) 助川未枝保 (船橋市三山・田喜野井地域包括支援センター) 大戸優子 (いちばら生活相談サポートセンター) 朝川知昭 (厚生労働省 参事官 総合政策統括担当) コメンター: 北野誠一 (おおさか地域生活支援ネットワーク理事長) 進行: 大平真太郎 (滋賀県健康医療福祉部障害福祉課副参事)

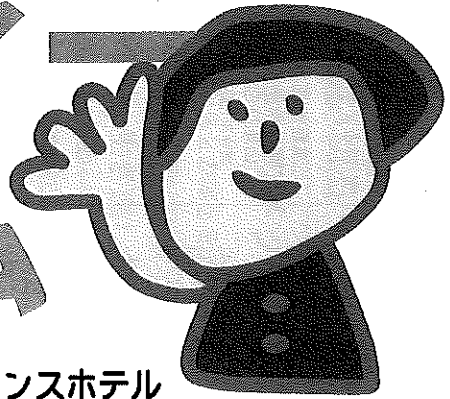
10:30 「健康寿命」「健康寿命」と言わないで~生きかえりを重ねて生きよう~ 清水明彦 (第21回糸賀一雄記念賞受賞者) 名里晴美 (社福) 訪問の家理事長 進行: 丹羽彩文 (社福) 郵務執行理事

11:20 変わる精神科医療! 若き院長の挑戦。 親子2代で挑む地域に開かれた精神科病院 ~フットサルのことも~ 児玉圭 (こだま病院院長) 立ち止まって考えよう認知症治療 ~ダウン症の方の意識過行のことも~ 大石智 (北里大学医学部精神科講師) 若き院長の認知症病棟改革。 医者の大仕事は? 坂井智朗 (栗野厚生病院院長) 進行: 田島光浩 (社福) 南高愛護会理事長、精神科医 アドバイザー: 土生栄二 (厚生労働省大臣官房医)

12:45 第24回アメンティフォーラム最終講義 良い加減に生きられないあなたへ 北山修 (精神科医・作詞家)

第24回

アメニティ フォーラム



2020年2月7日(金)▶9日(日) びわ湖大津プリンスホテル

第24回アメニティフォーラムのプログラムが出来上がりました。
今回も多くの方々のご協力を頂きながら、一緒に、創り上げることができました。
このフォーラムのスタートは、24年前の1996年(平成8年)となります。
当時、障害がある人たちの地域生活を支えるために、何が必要なかを議論し、
少しでも形にしていくことがフォーラムの主なミッションでした。
しかし、時代が変化する中で、障害福祉のことだけを議論していても、
障害がある人達の暮らしは良くならないということに気が付き、その後は、
社会的養護、生活困窮、高齢福祉、人口減少等、様々な社会課題を取り上げてきました。
障害がある人達から生み出される文化芸術も積極的に紹介してきました。

今回は、オリンピック・パラリンピックが開催される年でもあることから
「日本博」(文化庁事業)との連携を行ないます。
日本の文化を総合的に紹介する「日本博」のプログラムとして、
障害がある人達の文化芸術を中心とした取り組みも紹介されることになりました。
「日本博」を成功させるために、アメニティフォーラム実行委員会も共に
頑張っていこうと思います。

毎年、フォーラムの参加者から頂く声の中に、「一年間、頑張ってきた自分への
ご褒美にこのフォーラムに来ました」という嬉しい言葉があります。
この仕事の楽しさを再発見できる、そういう視点や感性と出会えるフォーラムに
したいと考えていますので、ご期待を頂ければと思います。
そして、このような参加者の想いに応えることができる様、
今回も目一杯のホスピタリティと冬の琵琶湖と共に、関係者一同で、
心よりお待ちしております。

第24回「アメニティーフォーラム」

シンポジウム

2020年2月9日(日曜日)

8:30~10:00

大津プリンスホテル

「障害のある人の食」

～栄養学の視点から～

神奈川県立保健福祉大学学長

中村丁次

1. 病気や障害があってもウェルネスな状態を目指す

ウェルネスとは

健康を身体の側面だけでなく、より広義に総合的に捉えた概念。米国のハルバート・ダン医師が『輝くように生き生きしている状態(1961)』と提唱

近年の定義 2017年 琉球大学荒川雅志

「身体の健康、精神の健康、環境の健康、社会的健康を基盤にして、豊かな人生をデザインしていく、自己実現」

ウェルネス Well:「元気」や「爽快」

「病気:illness」とは対照的な言葉。

従来、「病気ではない状態」、つまり「健康」(ヘルス)と表現してきた。しかし、健康は、豊かな人生、輝く人生を目指す手段や条件であり、ウェルネスの過程である。

共生社会、高齢社会、環境社会を向かって、病気や障害があっても、ウェルネス(元気で爽快)な状態を目指す。

② 病気や障害があってもウェルネスを目指す栄養・食事 健康寿命を目指す栄養・食事

- ① 栄養素の欠乏症と過剰症を予防、治療する
- ② 栄養不良状態(欠乏状態と過剰状態)を改善する
- ③ 栄養素が持つ機能性を高める(栄養機能性食品)
- ④ 環境負荷を軽減する

健康寿命とは、何か？

老化により、人間は聴力や視力、移動能力など身体能力は、喪失や低下する。それに加えて慢性疾患(心臓病、脳卒中、慢性呼吸疾患、癌、認知症など)を抱えるリスクも高くなる。

このような状況の下で“healthy ageing(健康な高齢化)”とは、決して「病気ではない」状態を目指しているのではない。

健康寿命の延伸とは、病気になっても、障害も持っても、住み慣れた環境の中で、残された機能的能力を発揮して、自立した生活のもとに幸福感を感じながら生きていくことを目指す。

② 元気で、自立でき、快適な生活ができる高齢者を作ること目標にする。

この国の未来がなくなる？

子どもの支援を本気で考えよう

時間 16:00～18:20

講師 潮谷 義子

I. 少子化の進行と人口減少社会の日本

1. 年少人口（14才以下）と生産年齢人口（15～64才）の減少
 - 1990年代から2000年前半、第二次ベビーブーム世代の出産時期
…合計特殊出生率の急速な低下。以後「少子化スパイラル」の時代を迎えた。
加えて晩婚化
 - 生涯未婚率の上昇 子や孫を持たない人々の増加
 - 現在ある家系の多くが2～3代の内に消滅する見とおし
2. **少子化対策は**有効な対策を長期間継続して親世代を増加させていくことによって初めて人口減少を止めることが出来る…（故）金子隆一先生
 - 次世代育成支援対策推進法
 - 子育て支援対策 保育所増
 - 育児・介護休業法
 - ワークライフバランス 等々

II. 子どもは愛され守られているだろうか

1. 「いのち」を愛せない環境
 - (1) 社会的排除の増大と深刻化
 - 虐待（添付資料参照）
（背景）経済的困難、不安定な就労、ひとり親、育児疲れ、放棄、拒否、夫婦間の不和、孤立、劣悪な住、食、衛生
児相 2017年度に対応した虐待件数 13万3778件
1990年の統計開始以来連続で増
 - 殺人（2019年新聞報道）
親族殺人 418件（殺人事件全体 886件）47.2%
介護、看病疲れ 31件、子育て 17件
 - 孤食 ほとんど毎日11% 週の半分15%
 - 引きこもり 41才以上61万人 ニート（15～39才）54万人
 - 住居のない人・・・路上生活、ネットカフェ、ホームレス
 - 貧困、ネット依存症、LGBTの人々への人権侵害

琵琶を持たない琵琶法師

— 歩く・触る・語る —

広瀬 浩二郎

1. 歩く＝なぜ向き合い続けるのか

- ① 自身の「障害」に向き合う
 - ② 多数派との違いに向き合う
 - ③ 「探案」という人生のおもしろさに向き合う
- ※アントニオ猪木の詩

2. 触る＝どう向き合い続けるのか

- ① 博物館の「常識」に向き合う
 - ② 視覚優位の「近代」に向き合う
 - ③ 物・者とのコミュニケーションのあり方に向き合う
- ※無視覚流ライブを拓く「さわる素紙」

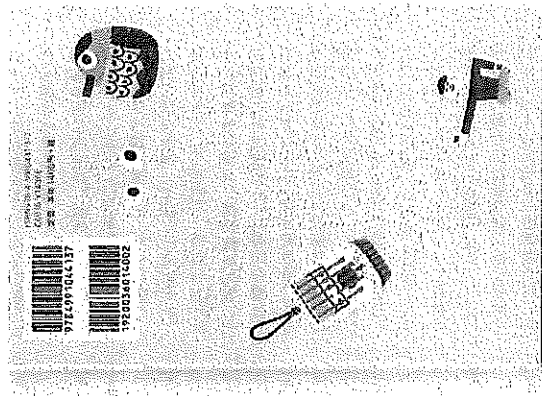
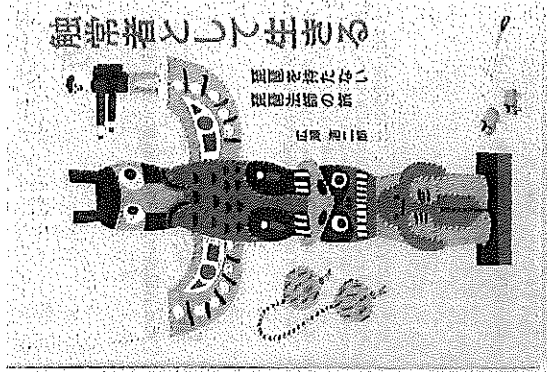
3. 語る＝誰と向き合い続けるのか

- ① 聴衆の雰囲気に向き合う
 - ② 触角で「目に見えない世界」に向き合う
 - ③ 「まち」の物語に向き合う
- ※「射葉」ワークショップの全国展開

「この道を行けばどうなるものか、危ぶむなかれ。危ぶめば道はなし。踏み出せばその一足が道となり、その一足が道となる。迷わず行けよ。行けばわかるさ。」
(アントニオ猪木)

「どんな時代においても、人間の最高の幸福は、新しい発見に参加することであった。」(エーライ・ガガーリン)

「発達は、偏見を点検し、真剣に探検することから生まれる。そして、発達は人間を頑健にする。」(広瀬浩二郎)



アメニティーフォーラム24
2月8日（土） 15:00～

張り切って参りましょう！作る法律、見直す法律

尾上浩二氏（DPI日本会議副議長） 資料